

お薬のしおり

带状疱疹

No.72 (H19.9)

東京医科大学病院 薬剤部

夏の暑さもおさまり、少しずつ涼しくなってきました。夏の疲れは涼しくなる頃に出てきますし、季節の変わり目は体調を崩しやすいものです。このように、からだの抵抗力がおちてしまったときに起こりやすい病気に带状疱疹があります。この病気は決して珍しい病気ではなく、大人の1割から2割の割合でかかるともいわれています。

带状疱疹(たいじょうほうしん)は、水ぼうそうと同じ病原体(水痘带状疱疹ウイルス)によって起こる病気です。多くの人が子供のときに水ぼうそうにかかりますが、このウイルスは、水ぼうそうが治った後も、からだの神経節の中に潜んでいます。潜んだままの状態では何の症状もありませんし、二度と活動を起こさない場合もあります。しかし、大きな病気にかかったり、からだに疲労が蓄積するなどして、からだの抵抗力が落ちたときに、このウイルスが再び活動して、带状疱疹として発症します。

症状としては、赤い発疹や水ぶくれなどが神経にそって帯状に現れます。一番多く見られるのは、肋間神経のある胸から背中にかけてです。そのほかにも顔や頭、手、足にみられることもあります。顔にある三叉神経にそって出てきた場合は、顔面神経麻痺や視力障害を起こしてしまうこともあるので注意が必要です。このような皮膚症状とともに、あるいは皮膚症状より先にちくちくするような痛みも起こります。水ぶくれは出来てから1週間ほどで、乾いたかさぶたとなります。水ぶくれが広い範囲に出来ると、皮膚に痕が残ることもあります。ほとんどの場合、後遺症もなく回復します。治癒までには3週間から1ヶ月ほどかかります。



よく、帯状疱疹は人にうつるのですかと訊かれますが、うつるということはほとんどありません。ただ、水ぶくれの中には、原因となるウイルスがいます。水ぶくれが治るまでは、まだ水ぼうそうにかかっていない赤ちゃんや子供、妊産婦さんなどには接触しないほうがよいでしょう。水ぼうそうになっていない人と接触すると、相手が水ぼうそうになってしまうことがあります。

帯状疱疹の治療には、抗ウイルス薬とよばれるウイルスの増殖を抑える薬（商品名：ソビラックス、バルトレックス、アラセナなど）を使います。抗ウイルス薬には、飲み薬や塗り薬などがあります。できるだけ早いうちに抗ウイルス薬を使うと、症状の悪化や皮膚、神経へのダメージを軽くすることが期待できます。また、痛みを伴うことも多いので、痛みの度合いにあわせて消炎鎮痛剤などを使用します。この他、炎症を起こした神経の再生のために、ビタミン剤を使用することもあります。

帯状疱疹は一度かかると免疫が得られ、再度かかることはほとんどありません。ただ、高齢者の場合、「帯状疱疹後神経痛」といって、患部に慢性的な痛みが残ってしまうこともあります。この痛みは、帯状疱疹が治った後、数ヶ月（長い例では数年）にわたって続きます。



帯状疱疹を予防する方法はありませんが、日ごろから健康に気を配り、十分な栄養と睡眠、適度な運動など体力を低下させないことや、ストレスを溜め込まないことが大切になります。